

ENAA/PMAJ 国内最大のPM大会

基調講演1

「企業経営とプロジェクトマネジメント」

日本テレコム株式会社 取締役代表執行役社長 倉重 英樹

基調講演2

「トヨタ生産方式(TPS)の本質とソフトウェア開発」

名古屋工業大学 客員教授(トヨタ社友) 黒岩 恵



注目企画!

1. 明日を創るプロジェクトマネジメント
2. 進化するプロジェクトマネジメント
3. PM水平線の伸張
4. 参加型シンポジウム

>>> 次世代への進化とチャレンジ

明日を創るプロジェクトマネジメント

Project Management Symposium Japan 2006

PMシンポジウム

平成18年8月31日(木)・9月1日(金)

タワーホール船堀 江戸川区総合区民ホール

2006

主催：財団法人エンジニアリング振興協会 (ENAA)

特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会 (PMAJ)

後援：経済産業省

協賛：社団法人情報サービス産業協会、特定非営利活動法人ITコーディネータ協会 他

開催のご案内

日本経済は、失われた10年と呼ばれたトンネルをようやく抜け出ようとしています。しかしながら、足元には2007年問題や少子高齢化、環境問題など様々な課題が存在し、永続する成長を遂げるためには、これらの課題を克服しこれまでの延長線上にはない変革を遂げて行かなければならないと思います。

本シンポジウムでは、プロジェクトマネジメントが新たな成長力創造の礎となるため、以下の内容をテーマとしたプログラムを企画しています。



1. 明日を創るプロジェクトマネジメント

日本がこれからも成長を続けるためには、我が国が誇る“ものづくり”の強みを、“仕組み”を加えることによって、世界に通用する強みとして確固としたものにしなければなりません。その仕組みとしてのプログラム&プロジェクトマネジメントがどう貢献し得るかを俯瞰するために、今回新たに「日本の明日を創るPM」トラックを設け“世界に貢献する明日の日本”に向けた提言を行います。

2. 進化するプロジェクトマネジメント

伝統的なプロジェクトマネジメントから、大規模化・複雑化するプロジェクトをマネージするプログラムマネジメント、そしてプロジェクト型組織の運営を目指したエンタープライズプロジェクトマネジメントと言うように、プロジェクトマネジメント手法も年々進化を遂げています。実務に

活かせる最新プロジェクトマネジメント手法や実践でのポイント等について実例を交えてお届けします。

3. PM水平線の伸張

縦軸としての業界別切り口、横軸としての人材育成、プログラム&プロジェクトマネジメント、グローバル等の視点。そして理論と実際の両輪。当シンポジウムならではの多面的なアプローチにより、新たな何かを必ず得ていただけます。

4. 参加型シンポジウム

CFP（公募講演）、それと自らも頭と手を動かしてみるワークショップ。能動的に関われる参加型シンポジウムであることも特徴の1つです。

- CPU
- PDU
- 知識ポイント
- PM教育受講証明

PMシンポジウム2006は、各種ポイントの認定対象となります

CPU

発給ポイントは以下の通りです。（1時間当たり2ポイントが基本となります）

- ◆1日目（全時間出席の場合）：10.5ポイント
- ◆2日目（半日講座）：5ポイント
- ◆2日目（1日講座）：11ポイント

ご注意

CPUポイントは自己申告制で、証明書は発行しません。

PDU

ENAAはPMI®認定教育プロバイダー（REP）であり、本大会は、メイン・シンポジウム並びに2日目のセミナー共にPMP®向けのPDU発給対象となっております。発給ポイントは以下の通りです。

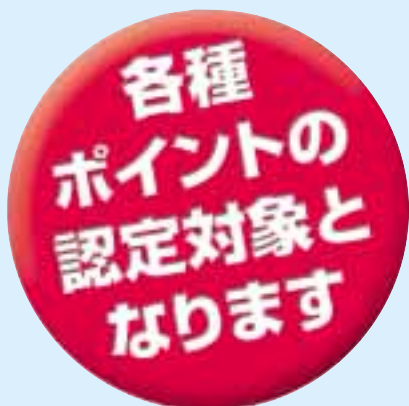
- ◆1日目：7PDU
- ◆2日目（半日講座）：3PDU
- ◆2日目（1日講座）：6PDU

ご注意

PDU申請は必ず一括で行ってください（初日・2日目を分割するとエラーになります）。また、PMP®資格認定試験受験用受講証明書も発給致します。

知識ポイント（ITコーディネータ）

ITコーディネータ資格者には、協賛（後援）により4時間当り1ポイント相当（上限なし）の「知識ポイント」が付与されます。



< 1日目 午前 >

基調講演 1 企業経営とプロジェクトマネジメント
8月31日 10:00~ 日本テレコムの変革

日本テレコム株式会社 取締役代表執行役社長 倉重 英樹



【講師略歴】1942年生まれ。早稲田大学政治経済学部卒。1966年日本アイ・ビー・エム(株)入社。1985年同社取締役就任、1993年同社取締役副社長就任、同年プライスウォーターハウスコンサルタント(株)代表取締役会長就任、2002年IBMビジネスコンサルティングサービス(株)代表取締役会長就任、2004年日本テレコム(株)取締役代表執行役社長就任、現在に至る。社外役職多数。著書に、「高収益企業への挑戦」(監訳1996年、ダイヤモンド社)、「企業大改造への決断」(1996年、ダイヤモンド社)、「プロフェッショナルイズムの覚醒」(2003年、ダイヤモンド社)がある。

世の中はめまぐるしく変化し続けている。拡大するグローバル化やM&Aの中、企業は体質改善を迫られている。意思決定・商品開発・顧客対応等、あらゆる面でのスピードアップは、企業にとってもはや必要不可欠である。しかし、スピードアップや業務効率化だけでは十分ではない。お客様が満足する商品やサービスを提供するためには、創造性の実現も企業の重要な経営課題となるのではないだろうか。

2004年2月、日本テレコム(株)取締役代表執行役社長へ就任後、日本テレコムの変革を開始した。旧来型の中継通信会社からICTソリューションカンパニーへの変革を目指している。人事・研修・ワークプレイスの3本柱を中心に、組織改革を進めている。改革のキーコンセプトは「Professional & Collaboration」。プロジェクト制・PMP資格取得制度・PMコミュニティ等の新しい制度を導入し、プロジェクトマネジメントを重要な戦略の一つと位置付けた。また、新しいワークプレイスでは、オフィスの中に街を作り、五感を刺激し創造性を刺激する環境を創り上げた。改革における重要なポイントは、「楽しさ」。社員が楽しく働ける環境を作ることで、社員のモチベーションの創造につなげている。このような社内環境整備も、経営者に与えられている重要な課題の一つである。

本講演では、現在取り組んでいる日本テレコムの変革について語りたい。

基調講演 2 トヨタ生産方式(TPS)の本質とソフトウェア開発
8月31日 11:05~

名古屋工業大学客員教授 (トヨタ社友) 黒岩 恵



【講師略歴】1969年九州大学工学部工学修士課程(電気・制御)卒業。同年トヨタ自動車(株)入社。ロボットを含む生産技術開発(機械加工、鋳造、溶接、型加工)。工場建設とPA、新車開発のLA、FAの大規模な制御・情報システムの開発推進。物流改善とトヨタ生産方式の情報化(生産情報システム、「e-かんばん」など物流情報システム)推進。1990年代初まで10年間、全社の「IT、メカトロ・FA教育」推進責任者。IMS、オープンFA、CALSなど通産プロジェクトに関わり、2000年から2003年末トヨタ退社まで、電子商取引推進協議会、日本経団連など多くのEC/IT関連団体の委員会活動に参加。現在、名古屋工業大学客員教授。九州工業大学大学院講師など大学、団体での講義・講演活動。東京、名古屋で「ものづくりITイノベーション」非営利団体DEE21を主宰。

トヨタの経営哲学、DNAとも言われ、世界でも喧伝されるTPSは、生産活動だけでなく、多くの業種業態の改善・改革手法として適用されている。トヨタが米国で生産活動を始めて20年強、新車開発とTPSにおけるプロジェクトマネジメントは、80年代に衰退した米国製造業を「リーン生産方式」という名で復活させた。製品開発の面では、ITを駆使したコンカレントエンジニアリングへの日本的組織運営の導入。現場管理では、人を最大の経営資源とするTPSである。日本同様に多くの課題を抱えている米ITソフトウェア業界では、もの造りにおけるリーン生産方式をソフト開発プロセスに取り入れ、Lean/Agile Software Development(LASDと略)として多くの方法論が提案、適用されている。

SCMや、ウォルマートなど米流通業のECR、あるいはゴールドラットのTOCなど、日本で知られている3文字略語の源流は、「自動化」とともにTPS実現の二本の柱である「ジャストインタイム」である。2000年以降、多くを米国から学ぶ日本のIT業界にもTPSが逆上陸しつつある。米国ではXP、Crystal、FDD、Scrumなど多くのLASDの方法論が提案されている。LASDでは、「改善、見える化、ムダの排除、コラボレーション、ジャストインタイム、自動化、相互支援、仕事の流れ化とリズム化、PDCA、問題点の顕在化、リードタイム短縮」などのTPSで強調する、ものづくり改善・改革の手法が取り入れられている。

ここでは、TPSの本質とTPS視点でのソフトウェア開発について米国のLASDの方法論を比較しながら考察したい。

8月31日(木) 09:15~17:45 2F 桃源にて展示ブース及び喫茶サービスを設置します。

午前	
5F 大ホール・小ホール (定員750名・300名)	
09:15	開場、受付開始
09:45 10:00	開会のご挨拶 「主催者挨拶」 「来賓ご挨拶」
10:00 10:50	基調講演1 「企業経営とプロジェクトマネジメント」 ～日本テレCOMのトランスフォーメーション～ 日本テレCOM株式会社 取締役代表執行役社長 倉重英樹
11:05 11:55	基調講演2 「トヨタ生産方式(TPS)の本質とソフトウェア開発」 名古屋工業大学 客員教授(トヨタ社友) 黒岩 恵

	ITトラック	エンジ・建設・不動産トラック	製造・サービストラック
	5F 大ホール (定員750名)	4F 研修室 (定員84名)	2F 福寿 (定員135名)
13:10 14:00	【IT-1】「ユーザー要求に振り回われないプロジェクトマネジメント」 繁野 高仁 (KDDI)	【EG-1】国際宇宙ステーション開発プロジェクトにおけるリスク・マネジメント 有人安全設計手法と安全管理 長谷川義幸(宇宙航空研究開発機構) 吉原 徹(宇宙航空研究開発機構) 朝田 洋雄(宇宙航空研究開発機構) CfP	【MS-1】日本を元気にする農業活性化プロジェクト ～マネジメントの基本は、人望だ～ 伊藤 淳子(エイガアル)
14:20 15:10	【IT-2】ITガバナンス活用によるプロジェクトマネジメントの組織力強化 企業リスク・マネジメントの視点からの考察 栗原 秀仁(システムオリコ)	【EG-2】エンジニアリングプロジェクトにおけるP2M適用モデル P2M-DNAの構築に向けて 田中 弘(日揮)	【MS-2】新型マツダロードスターの開発 商品コンセプトと開発モチベーション 貞島 孝雄(マツダ)
15:30 16:20	【IT-3】技術KIを活用したプロジェクトマネジメントの改革の実際 一人ひとりに光をあてる マネジメント改革 坂本 茂(クオリカ)	【EG-3】三方良しの公共事業改革 優秀なPMの暗黙知を形式知に: 人中心のTOCクリティカルチェーン 岸良 裕司 (ビーイング、日本TOC推進協議会)	【MS-3】どうやってPMを転がすのか!! -PM実践現場におけるプロジェクトナレッジの蓄積と活用- 赤根 直樹(日立製作所) 横田 毅(日立製作所) 吉川 和宏(日立製作所) 新野 毅(日立製作所) CfP
16:40 17:30	【IT-4】プロジェクト目標によりプロジェクトパフォーマンスは確実に向上する 経営目標を中心とした「目標中心型開発スタイル」の提言 大沼 哲也 (富士通東北システムズ) CfP	【EG-4】【パネルディスカッション】建設生産システムの将来 法制度の変革と建設プロジェクトのマネジメントの実像 古阪 秀三(京都大学) 山本 明男(鹿島建設) 坂本 圭司(竹中工務店) 他	【MS-4】【実践記録】技能教育の新たな可能性に挑む ブレンド教育が理解力を高め 技能を育む 天野 高宏(フジノン)

※小ホールは映像による中継となります。

9月1日(金) 教育セミナー全19プログラム開催
～PM基礎講座からPM実践・ヒューマンリソース・IT関連セミナー～

	午前(10:00~12:30)	午後(14:00~16:30)
A	2F 平安 (定員135名) 【A1】P2Mガイドブック及び事例紹介 ～P2Mの特徴の理解を深める～ 濱 久人(松下電器産業) P2M	【A2】P2Mプログラムマネジメント・ワークショップ プロファイリングマネジメント実践 渡辺 貢成(PMAJ)、白井 久美子(日本ユニシス、日本ユニシス・ラーニング)
B	2F 福寿 (定員135名) 【B1】企業レベルPMを支える効果的PMO～リスクマネジメント・アプローチによる実現～ 和の魂が洋のPMBOK®をより強くする(和魂洋才)、知識と実践の一致(知行合一) 葉山 博昭(イデオ・アクト)	【B2】PMBOK®ガイド第3版解説 PMBOK®ガイド第3版によるプロジェクトマネジメント知識体系の解説 小溝 利也(大塚商会) PMIP
C	2F 桃源 (定員135名) 【C1】現場力を高める見える化手法『プロジェクトファシリテーション』 モチベーションアップのツールと場作り 平鍋 健児(チェンジビジョン)	【C2】PMOツール活用によるプロジェクト成功のシナリオ 効果的なプロジェクト推進の仕組みを検証する 浦 正樹(マイクロソフト)、安田 和司(マイクロソフト)
D	2F 瑞雲 (定員135名) 【D1】本当に使える見積もり技術 見積もりプロセスをマネジメントする 初田 賢司(日立製作所)	【D2】失敗しない外注管理 いかに協力会社のコミットメントを強化するか 長尾 清一(PMコンセプト)
E	4F 研修室 (定員 E1 65名 E2 84名) 【E1】必修!PS流誉め方叱り方 ～メンバーの心に響くリーダーシップとは～ 松尾谷 徹(テバック工学研究所) 松田 浩一(富士通)、森本 千佳子(TIS) SiG ワークショップ	【E2】プロマネ成功学 プロジェクト危機解決から学ぶプロジェクトマネジメントの 成功要因と今後の課題 拜原 正人(クロスリンク・コンサルティング)
F	4F 401 (定員63名) 【F1】PMIによる21世紀の効果的なプロジェクト遂行と遂行 技術の伝承の方策 高橋 良之(日揮プロジェクトサービス)	【F2】SIプロジェクトの実践的リスクマネジメントガイド SiG 受託案件型SIプロジェクトの成功に向けたリスクマネジメントのアプローチ 土出 克夫(富士通)、中谷 英雄(テクノサージ)

・18時より20時まで懇親会が催されます。

午後				夕方	
ヒューマンリソーストラック	P2Mトラック	グローバルトラック	日本の明日を創るPM	2F 瑞雲	
2F 平安 (定員135名)	2F 瑞雲 (定員135名)	4F 401 (定員63名)	5F 小ホール (定員300名)		
【HR-1】 自律型チームによるソフトウェア開発 アジャイルプロセスおよびコーチングの適用事例 濱 勝巳(アズーリ)	【PM-1】 「サプライチェーン改革と情報システム構築」プロジェクトを統合する方法論 サプライチェーンプロセスリファレンスモデルSCORを利用して 渡辺 和宣 (マネジメント&ERPインテグレーション) CfP	【GL-1】 Project Management in the Consulting Business <i>Reflecting views on Risk Management and Audit Methodologies</i> Soma Sundaram (KPMGビジネスアシュアランス)	【明日-1】 新しいものづくり政策 ものづくりパラダイムシフトを目指して 前田 泰宏 (経済産業省)	懇親会 「語らいの場」(懇親会)では、講演者、広い層の参加者、シンポジウムメンバーとネットワークを広げる交流の場を提供致します。	
【HR-2】 ITプロジェクトを成功させるプロジェクトマネージャの育成 仕事と資質を磨く新しい人材育成 佐藤 達男(アイネス) CfP	【PM-2】 経営改革を目的としたP2Mの業種別実践事例 企業再生活動におけるP2M手法の適用 平岡 武之 (平岡経営管理研究所)	【GL-2】 Project Management in the field of Service Procurement at Sony Taeko Inoue (Sony)	【明日-2】 シャープにおけるプロジェクト型組織マネジメント 液晶テレビAQUOSの開発プロジェクト例 杉野 道幸(シャープ)		18:00 20:00
【HR-3】 SEのためのコミュニケーション・プロトコル システム開発におけるヒューマン・コミュニケーション技術 小原 由紀夫(FFC) SjG	【PM-3】 PMRホルダ座談会 プログラムマネジメントは現業で役立っているのか? 白井 久美子 (日本ユニシス、日本ユニシス・ラーニング)	【GL-3】 Project Management by Consultant for Hai Van Tunnel Construction Project in Vietnam <i>Application of PMBOK® to a Multicultural Project in Developing Country</i> Ichizuru Ishimoto (Nippon Koei) CfP	【明日-3】 経営目標実現のためのIT投資とユーザー企業の課題 約1000社のユーザーの最新動向より 原田 俊彦 (日本情報システム・ユーザー協会)		
【HR-4】 「偶然」からキャリアを作る “デザインの時縛”から逃れて、幸せなキャリアを作るために 所 由紀 (HRMコンサルタント/中小企業診断士)	【PM-4】 ※会場は「5F小ホール」となります。	【GL-4】 The Evolution of Project Management <i>Are We Getting Better?</i> Hugh Woodward (Managing Editor, pmforum.org) (元PMI®会長)	※この時間帯は、「P2Mトラック」の講座となります。 【PM-4】 大阪府庁の総務事務改革プロジェクト推進事例 官民協働によるシェアードサービスの実現 辻部 稔(松下電器産業)		

		午前 (10:00~12:30)	午後 (14:00~16:30)
G	3F 303 (定員 G1 48名 G2 40名)	【G1】 「ITPM教科書」を読む:旧JPMF関西支部 2005年度自主勉強会活動 IT系のメンバーは、エンジニアのメンバーはどう読んだか、共通のシナリオを囲んで1年間 大久保 和彦、橋本 欽司	【G2】 チームと個人を幸せに導くプロジェクトマネジメント 顧客や組織を動かすプロジェクトマネジャーの心得と行動 近藤 哲生(ウインアンドウイン) ワークショップ
H	5F 小ホール (定員300名)	【H1】 死ぬ前に達成すべき25の目標:人生というビッグ・プロジェクトをマネジメントする 25TTDB4YD: 25 Things To Do Before You Die 中嶋 秀隆(プラネット)	【H2】 プロジェクト成功確率向上に向けた戦略的進化のための2つの視点 戦略的PMO & リーダーシップ力 伊藤 健太郎(アイシンク)

1日セミナー			
K	4F 407 (定員30名)	【K】 プロジェクト計画に必要なPMコンピテンシー開発ワークショップ PMコンピテンシーを強化する行動習慣とセルフメンタリング 好川 哲人(プロジェクトマネジメントオフィス)、加藤 隆(エデュコム) SjG ワークショップ	【K】・【L】・【M】は1日セミナーです。 セミナーのスケジュールは次のとおりとします。 ●午前 10:00~13:00 ●昼食 13:00~14:00 ●午後 14:00~16:30
L	3F 301 (定員30名)	【L】 若手PM向けWBSワークショップ 城戸 俊二(デム研究所) ワークショップ	
M	3F 307 (定員40名)	【M】 自立したチームを創るためのPMマインド ~コーチ型PMでメンバーの力を10倍引き出す~ 上田 雅美(アネゴ企画)、小田 美奈子(コーチングカフェ)、松本 潤二(松本屋) ワークショップ	

※両日とも申込み先着順に定員となり次第締切りとさせていただきますので、早めの申込みをお勧めいたします。

IT-1 「ユーザー要求に振り回されないプロジェクトマネジメント」

8/31 13:10

KDDI株式会社
執行役員 情報システム本部長 繁野 高仁

【セッション概要】ソフトウェア開発プロジェクトが失敗する大きな原因は、要求定義の不備、遅延、変更にあり、要求を述べるべきユーザー側の責任は重い。しかし、ユーザー側から見れば、ビジネス環境が変化すれば要求が変わるのは当然であり、柔軟に対応できないソフトウェア開発にこそ問題がある。

要求定義を精緻化し凍結して問題を克服しようとするのではなく、「ユーザー要求を無闇に聴かない」、「聴いたらすぐ作る」方向に発想を変えて見てはどうだろうか。新しい発想に基づくKDDIの取り組みを紹介したい。

【講師略歴】日本NCRを経て第二電電（現KDDI）とDDIポケット（現ウイルコム）の創業に参画し、情報システム部門の責任者として社内システム全般を統括。2000年からは、DDIとKDDI、IDOの合併に伴うシステム構造改革を推進。情報処理学会、経営情報学会会員。

IT-2 ITガバナンス活用によるプロジェクトマネジメントの組織力強化
＜企業リスク・マネジメントの視点からの考察＞

8/31 14:20

株式会社システムオリコ
代表取締役社長 栗原 秀仁

【セッション概要】主にITプロフェッショナルを対象に企業リスク・マネジメントの視点から以下の3点について考察し、プロジェクトマネジメントの組織力強化に向けた情報を提供する。

(1) 経営的視座から俯瞰した内部統制フレームワーク（日本版COSO）の捉え方を解説。(2) 内部統制におけるITガバナンスの位置づけをCOBIT等を参照しつつ確認。(3) 内部統制、ITガバナンスを踏まえたプロジェクトマネジメントの役割と効用について、オペレーショナル・リスクとITプロジェクト・リスクの関係等を交え持論を展開。

【講師略歴】(株)オリココーポレーション常務取締役、グローバルフォーカス(株)代表取締役社長を経て、現職。プロジェクトマネジメント学会理事・研究委員会副委員長、日本リスクマネジメント学会会員、ISACA会員、早稲田IT戦略研究所ELFメンバー、PMP®。

EG-1 国際宇宙ステーション開発プロジェクトにおけるリスク・マネジメント

8/31 13:10 <有人安全設計手法と安全管理＞

宇宙航空研究開発機構 JEM運用プロジェクトPM 長谷川 義幸、開発員 吉原 徹、
宇宙基幹システム本部 客員開発員 朝田 洋雄 **CyP**

【セッション概要】国際宇宙ステーション開発は人類史上最大規模の国際宇宙科学技術協力プロジェクトで、日本、米国、ロシア、カナダ、欧州等世界15ヶ国が各々の実験モジュールを分担開発して、宇宙で組立てる現在進行中のプロジェクトである。

これまで有人宇宙機開発の経験がなかった日本にとって、独自の宇宙実験棟開発で経験した安全設計要求は非常に厳しいものであったが、NASA安全審査を何回も受け、安全設計手法の奥深いノウハウを修得してきた。

本報告では、実例を選びそのエッセンスを紹介する。

【講師略歴】長谷川義幸：1976年芝浦工大修士課程終了。同年宇宙開発事業団（現宇宙航空研究開発機構）入社、通信・放送・気象実用衛星用管制システム開発に参加。1985年から1年間、NASAジェット推進研究所に留学。1995年より国際宇宙ステーション日本実験棟開発プロジェクトに参加。現在、PMに従事。

EG-2 エンジニアリングプロジェクトにおけるP2M適用モデル

8/31 14:20 <P2M-DNAの構築に向けて＞

日揮株式会社
企画渉外本部副本部長 田中 弘

【セッション概要】総合エンジニアリング業は50年の実践を通じたPMのDNAを形成している。PMはコアコンピテンシーであり、ビジネスにしっかりと根付いている。しかしP2Mへのチャレンジは高いトーンでは語られてない。(財)エンジニアリング振興協会PM部会とPMAJのP2M部会ではジョイントチームを通じてエンジニアリングプロジェクトでのP2Mフィロソフィーと手法の活用状況を探り、これを適用モデルとして纏める作業を行っている。

本セッションではこの取り組み紹介し、エンジプロジェクトでのP2Mの世界を紹介する。

【講師略歴】1967年慶応義塾大学法学部卒・日揮株式会社入社。プロジェクトの生産管理担当、プロジェクトアドミニストレータ、インドネシア合弁会社業務部長、業務部プロポーザルサービスマネジャー、業務部長・副本部長・プロジェクト業務本部長代行兼日揮プロジェクトサービス取締役を経て現職。

MS-1 日本を元気にする農業活性化プロジェクト

8/31 13:10 <マネジメントの基本は、人望だ＞

株式会社エイガール
代表取締役社長 伊藤 淳子

【セッション概要】食料自給率の低下や、少子高齢化、環境保全など、いろいろな点で、農業や地域の活性化が問われている。

しかし、農業を営む人々と、農業周辺ビジネスで関わる人々の根本的な考え方や温度差は、想像以上に深い溝がある。目標設定以前の企画推進コンセンサスのとりまとめ、プロジェクトの進行管理やマネジメントなど、農業や地域のプロジェクトが成功するための要因と実際の活動について、体験を踏まえて発表する

【講師略歴】大手出版社の雑誌や出版の編集企画制作を経て、漫画家寺沢武一の著作権管理&プロデュースを15年担当。現在は、地域ブランドの企画開発コンサルティングなど、農と食を主なテーマにしている。中小機構地域ブランドアドバイザー。農林水産省「食料・農村・農業政策審議会」委員

MS-2 新型マツダロードスターの開発

8/31 14:20 <商品コンセプトと開発モチベーション＞

マツダ株式会社 プログラム開発推進本部
ロードスター開発主査 貴島 孝雄

【セッション概要】新型マツダロードスターの商品コンセプトは“人馬一体”と称して、人の感性に訴える価値を定義し具現化した商品である。乗馬の世界で馬と騎手が作り出す人馬一体感を、工業製品であるクルマとドライバーの間にも具現化したいとの狙いである。クルマを意のままに操る楽しさ、クルマの美しさ、満足感など数値化の困難な感性目標を如何に定義し、クルマとして開発ベクトルを束ね、開発者モチベーションの維持、高揚を図ったか、開発ストーリーを通して、プロジェクトマネジメントを紹介する。

【講師略歴】1967年東洋工業（現マツダ株式会社）入社。商用車、乗用車のシャシ設計開発に従事。1980年代にはRX-7、ルマン24時間レース優勝の787B車等も開発。1992年からRX-7、2代目ロードスターの開発主査。2001年から3代目ロードスターの開発主査。モノ創りをテーマに講演多数

IT-3 技術KIを活用したプロジェクトマネジメントの改革の実際

8/31 15:30 <一人ひとりに光をあてる マネジメント改革>

クオリカ株式会社
西日本事業部長 坂本 茂

【セッション概要】組織風土改革を目的に「技術KI」※を導入。結果として、現場力が向上し、赤字プロジェクト(失敗プロジェクト)が減少しつつある(ビジネスの成功)。また、社員の成長・自律化が進んでいる(個人の成長)。

これらを実現するために具体的にやってきたことを、「見える計画」「課題の事前発掘」「ミーティング」「振り返り」「マネージャーのふるまい」をキーワードで紹介する。あわせて、成果と今後の課題をまとめとして報告する。

※「技術KI」:(株)日本能率協会コンサルティングの登録商標

【講師略歴】昭和49年4月(株)東洋情報システム(現TIS)入社
平成6年4月 同社 大阪産業システム事業部 大阪製造システム第1部 部長
平成14年4月 コマツソフト(株)(現クオリカ)出向 第2事業部 副事業部長
平成18年4月 クオリカ(株) 執行役員 西日本事業部事業部長

IT-4 プロジェクト目標によりプロジェクトパフォーマンスは確実に向上する

8/31 16:40 <経営目標を中心とした「目標中心型開発スタイル」の提言>

株式会社富士通東北システムズ(ビジネスソリューション事業部 産業・流通ソリューション部)
大沼 哲也 **C&P**

【セッション概要】経営者にとって「システム構築プロジェクトの成功」とは、構築したシステムで期待通りの価値(利益)を生み出すことである。しかし、SIベンダーやお客様のプロジェクトメンバーは、この真の目的を、どれほど意識してシステムを構築しているだろうか。構築すること自体を目的(ゴール)と考えていないだろうか。

本講演では、「目標中心型開発スタイル」を実践したプロジェクト事例を基に、如何にして目的からブレないシステムを構築するか、また、そこから得られる効果を紹介する。

【講師略歴】1988年(株)富士通東北システムズ入社。東北地区の中小流通業・製造業のプロジェクトに従事。1995年より東北地区の流通業・製造業の多くのSIプロジェクトのPMに従事し現在に至る。独自の管理ツールや方法論を開発し社内に展開。2005年 富士通SSコンベンションにて最優秀賞受賞。

EG-3 三方良しの公共事業改革

8/31 15:30 <優秀なPMの暗黙知を形式知に:人中心のTOCクリティカルチェーン>

株式会社ビーイング 取締役
日本TOC推進協議会 理事 岸良 裕司

【セッション概要】「TOCは常識をベースとしている」とは良く言われているが、日本になじみ深い現場における暗黙知とTOCの関連について説明しながら、わかりやすくTOCのプロジェクトマネジメント手法であるクリティカルチェーン(CCPM)の最新のスケジューリング手法を紹介する。

また実践事例として、P2Mのフレームワークで、国土交通省北海道開発局を舞台に、公共事業の信頼回復のために現場が取り組んだ「納税者良し、企業良し、行政良しの三方良し」の改革の実例を紹介する。

【講師略歴】1984年京セラ(株)に入社。2003年ヘッドハンティングされ、土木積算業界のソフトでトップシェアを誇る(株)ビーイングに入社。低迷している建設業界の再生にチャレンジしている。著書『目標を突破する実践プロジェクトマネジメント』『実学社長のマーケティング』(中経出版)

EG-4 [パネルディスカッション] 建設生産システムの将来

8/31 16:40 <法制度の変革と建設プロジェクトのマネジメントの実像>

京都大学大学院工学研究科助教授/日本CM協会前会長 古坂 秀三、鹿島建設株式会社 建築管理本部 建築企画部 企画・管理グループ長 部長 山本 明男、株式会社竹中工務店 ワークプレイスプロデュース本部 PM/CM担当 課長 坂本 圭司 他

【セッション概要】設計の進め方は東京オリンピックの頃と変わらないと言われるように、建設生産システムにも革新的な変化がないと言われる。

一方で、プロジェクトの大型化、複雑化、短工期化等はあるが、その実態は多様な発注形態・方式などの言葉の影であり明確ではない。法制度の疲労から大きな問題を抱え、その改正が大きな議論の対象になっている中、建設産業界に関係するさまざまなパネラーによる建設生産システムや建設プロジェクトマネジメントなどの議論を通じて、今後の建設産業界の展望をはかる。

【講師略歴】古坂秀三:1951年生まれ。1974年京都大学工学部建築学科卒業。清水建設勤務を経て1976年京都大学工学部助手。1986年京都大学工学博士。1987年京都大学工学部助教授。研究テーマは建築のプロジェクトマネジメント、プロジェクトマネジメントの国際比較など。他によるパネルディスカッション。

MS-3 どうやってPMを転がすのか!!

8/31 15:30 <PM実践現場におけるプロジェクトナレッジの蓄積と活用>

株式会社日立製作所原子力事業部技師 赤根直樹、日立研究所主任研究員 横田 毅
日立事業所技師 吉川和宏、原子力技術本部長付 新野 毅 **C&P**

【セッション概要】昨今のビジネス現場では先制的PMの実践が必須であり、日立はグループ全体でPMの高度化に取り組んでいる。特にプレプロジェクト(黎明期~契約完了)ステージの重要性が高く、電力グループではその時点のPM支援スキーム構築に注力している。本講演では、プレプロジェクトでの業務プロセスを運営する機構のあるべき姿と、プロジェクトの正当性評価や個々のプロセスで有効活用されるナレッジを体系的・構造的に構築する取り組み等について具体的に紹介する。

【講師略歴】代表講演者 赤根直樹:プラント建設計画、リスク管理、等に関するPM実務経験を生かし、現在はPMにおけるリスク管理を支援するスキームとナレッジの構築、推進に従事。共演者 横田 毅、吉川和宏、新野 毅:電力グループにおける各種PM高度化活動の推進に活躍中。

MS-4 [実践記録] 技能教育の新たな可能性に挑む

8/31 16:40 <ブレンド教育が理解力を高め技能を育む>

フジノン株式会社 総務部
主任 天野 高宏

【セッション概要】2007年問題が目前に迫った現在、若手技能者の育成は重要な課題である。ヒューマンリソースを最大限に引き出し短期間で育成することが急務である。

その答えを模索すべく、従来から取組む技能五輪の選手育成に新たな試みとして映像教育を導入し、コーチ、支援部隊、外部評価者のチームでプロジェクトを運営した。その結果として、実技教習と映像教育のブレンドで脳の活性化を促し、理解度が大幅に向上するなど様々な効果が得られ、好成績にも繋がった。その育成プロセスとノウハウを紹介する。

【講師略歴】1987年に富士写真光機(現フジノン)へ入社。経理部で原価計算、経営企画室で予算計画の立案等の業務を経て2001年に総務部へ。現在、広報業務全般の他、経鼻内視鏡を中心とした広告宣伝活動も担当する。また、総務部の人材教育の一環として技能五輪に事務局として携わる。

HR-1 自律型チームによるソフトウェア開発

8/31 13:10 <アジャイルプロセスおよびコーチングの適用事例>

有限会社アズーリ
取締役社長 濱 勝巳


【セッション概要】現在のソフトウェア開発では多種多様な開発や設計が必要であり、成功や失敗の多くは個人やチーム、組織による「人」による部分が大きな影響を与えている。個人のモチベーションを高め自律型のチームを作っていくことで、より良いソフトウェアをユーザへ提供することが可能となる。

実際にアジャイルプロセスやコーチング等を導入した事例から、いかにして、自律型チームを育て、運営していくかということを考える。

【講師略歴】メーカー系ソフトウェア会社でファームウェアのプログラマを経て、フリーのエンジニアとして独立。1999年に有限会社アズーリを設立。現在は、アジャイルプロセスを利用したエンタープライズアプリケーションを開発に従事している。アジャイルプロセス協議会副会長。

HR-2 ITプロジェクトを成功させるプロジェクトマネージャの育成

8/31 14:20 <仕事と資質を磨く新しい人材育成>

株式会社アイネス 金融システム本部損保システム部
プロジェクトマネージャ 佐藤 達男 

【セッション概要】プロジェクトマネージャの育成は、知識習得と実践経験のバランスが重要である。しかしIT業界の現状は、OJTとは名ばかりで現場に放り出し、その中から運よく生き残った人材をプロジェクトマネージャと称する成り行きに任せた育成によって、失敗プロジェクトの山を築き、有望な人材を潰している。

本講演では、プロジェクトマネージャを育成するために経験させるべき仕事と資質を「見える化」し、知識習得から実践経験に至る段階的なスキルアップによる新しい育成の仕組み「PM教習所」を提唱する。

【講師略歴】1964年生まれ。金融、製造業のシステム開発におけるプロジェクトマネージャ経験の後、人事課長、研修センター課長を経て、2006年より現職。システム開発の現場、経営スタッフ、人材育成のそれぞれの視点からプロジェクトマネージャのあるべき姿を追求している。米国PMI®認定PMP®。

PM-1 「サプライチェーン改革と情報システム構築」プロジェクトを統合する方法論

8/31 13:10 <サプライチェーンプロセスリファレンスモデルSCORを利用して>

株式会社マネジメント&ERPインテグレーション
代表取締役 渡辺 和宣 

【セッション概要】サプライチェーン改革およびERPなどの大型IT導入の両プロジェクトは、プロセスリファレンスモデルであるSCORを利用することで統合しかつ成功の可能性を高めることができる。P2Mによるスキームプロジェクトにおいて、段階的詳細化によるプロセス設計、スコープとコスト計画の段階的詳細化、一貫して業務プロセスを成果物とするプロジェクトライフサイクル、計画重視のプロジェクトマネジメント、「見える化」と合意形成、これを実現するためのプロセスとプロジェクトに関する統合方法論を述べる。

【講師略歴】中小企業診断士、公認システム監査人、PMP®、PMS、SCORアドバイザー。SI企業のERPコンサルティング部門や経営企画部門にて、自社を含むERP導入プロジェクトを担当。マネジメント&ERP社設立後、ERPやサプライチェーン改革の構想企画やPMOを支援。ERP/SCM関係の著書・論文多数。

PM-2 経営改革を目的としたP2Mの業種別実践事例

8/31 14:20 <企業再生活動におけるP2M手法の適用>

平岡経営管理研究所
所長 平岡 武之

【セッション概要】金融機関とタイアップし経営改善アドバイザー役として企業再生を支援する中で適用を図った実践事例の紹介である。

企業再生のための経営改革プログラム概要としては、①問題構造分析と優先課題の抽出 ②企業再生のシナリオづくり〔プロファイリングマネジメント〕 ③企業再生の枠組みづくり〔プログラムマネジメント〕 ④実践活動及び成果の確認〔個別マネジメント〕である。業種別実践事例としては、①機械設備業 ②部品製造業 ③建設業 ④食品加工業 ⑤衣料品スーパー である。

【講師略歴】山口大学経済学部卒業。日立製作所入社、経理及び事業部経営企画部門、プロジェクト組織による社内ベンチャー部門に従事。その後、コンサルティングファームにてコンサルティング業務に従事後独立。現在、地域企業の企業再生や経営改善指導に従事。平成15年10月PMS資格取得。

GL-1 Project Management in the Consulting Business

8/31 13:10 <Reflecting views on Risk Management and Audit Methodologies>

KPMGビジネスアシュアランス株式会社
Senior Managing Director, Soma Sundaram

【セッション概要】Project planning and execution often involve tools such as MS-Excel or MS-Project. Methodologies such as Critical Path Method, Critical Chain or Earned Value Management are used under varying circumstances. From lessons learnt from optimization, large-scale IT project management and consulting engagements, the speech focusses on success factors for "soft engagements" such as those in management consulting and professional advisory based on additional experience in risk management and audit methodologies.

【講師略歴】Soma is Senior Managing Director in KPMG specializing in Risk Management covering areas such as Internal Audit; Compliance. He is experienced in corporate strategy and project management in risk, process and IT areas.

GL-2 Project Management in the field of Service Procurement at Sony

8/31 14:20

ソニー株式会社
Group Leader, Project Management Group, Service Procurement Innovation Section, Operational Innovation Department, Procurement Center, Taeko Inoue

【セッション概要】At Sony, while efforts are made daily to make strong products, various projects are being carried out in the field of Service Procurement with the aim to reduce cash outflow. Efforts to thoroughly review work process and delete wastes are promoted with the spirit of "Mottainai" not only at Sony Corporation, but also globally with group companies with the perspective of total optimization. This presentation will introduce these projects.

【講師略歴】Taeko Inoue is currently involved in Project Management at Procurement Center, Sony Corporation. In her spare time, she gives consultation as Resume Pro Partner to support people who wish to work in foreign affiliated companies or study abroad.

HR-3 SEのためのコミュニケーション・プロトコル

8/31 15:30 <システム開発におけるヒューマン・コミュニケーション技術>

IT-SIG CP-WG

小原 由紀夫 (FFC)



【セッション概要】 日本在住のインド人、中国人や韓国、台湾に造詣の深いメンバーと共にオフショアでの問題を分析し、日本語の書き方、文化の違い、コミュニケーション・プロトコル構造を検討した。

その結果、通じるコミュニケーションには ①伝えることをわかっていること ②論理を組み立て、適切な表現を使う ③共体験を多く持つことの3つの要素があげられた。

検討成果を3つの要素への1つの解としてシステム開発におけるコミュニケーション・プロトコル要素発見表として纏め、発表を行う。

【講師略歴】 株式会社FFC PMOセンター VF推進室 担当課長：1983年立教大学理学部卒。同年富士通株式会社入社。同年富士ファコム制御株式会社出向。電機・自動車工場の現場システム構築に従事。2000年株式会社FFCへ社名変更並び転社。PMP®。PMAJ会員。米国ケイデンス・マネジメント社認定講師。

PM-3 PMRホルダ座談会

8/31 15:30 <プログラムマネジメントは現業で役立っているのか?>

日本ユニシス株式会社 人材育成部長 兼

日本ユニシス・ラーニング株式会社 代表取締役社長 白井 久美子

【セッション概要】 企業価値創造のためのP2Mを高付加価値なビジネス展開と顧客価値創造の観点で導入する企業は増加傾向にある。PMS有資格者は2000名を超え、PMR有資格者も約50名となった。

PMRホルダーたちはプログラムマネジメントを実践し、顧客へどのような価値をもたらしているのか? PMR資格取得を契機に習得した多くの知見が実践の場で本当に役にたっているのか? PM歴15年のベテランPMRホルダーたちがパネリストとしてプログラムマネジメントの現業における有効性について語る。

【講師略歴】 コーディネータ 白井久美子：PMAJ理事、国際P2M学会(IAP2M)理事 普及委員長、PMAJ認定 PMS、PMR パネリスト PMRホルダー：(株)日立製作所 浦瀬賢治、月島機械(株) 川崎淳、日本ユニシス(株) 星野隆之、日本ユニシスソリューション(株) 吉野 良成

GL-3 Project Management by Consultant for Hai Van Tunnel Construction Project in Vietnam

8/31 15:30 <Application of PMBOK® to a Multicultural Project in Developing Country>

Nippon Koei Co., Ltd. Highways and Bridges Dept, Overseas Consulting Admin. Deputy General Manager, Ichizuru Ishimoto



【セッション概要】 The Hai Van Pass located in coastal Central Vietnam, is the biggest traffic bottleneck, often blocked due to the slope failure during rainy seasons, on the NH1 linking Hanoi with HCM. The tunnel, a 6.3km long, construction was started on 1st October 2000 and open to the public on 5 June 2005, timely within the budget; the project scale is Two Hundred Million USD. The Consultant has been taking proactive initiative for project management with Primavera P3 and PMBOK®.

【講師略歴】 Joined Nippon Koei Co., Ltd. in 1988. Experienced Indonesia, Sri Lanka, China, Thailand, Zimbabwe, El Salvador, India, Vietnam. Project Manager from 2002. Presentation at PMI® Global Congress 2005, Singapore. Company's "Best Project Manager" in 2005.

HR-4 「偶然」からキャリアを作る

8/31 16:40 <“デザインの呪縛”から逃れて、幸せなキャリアを作るために>

HRMコンサルタント

中小企業診断士 所 由紀

【セッション概要】 個人と企業の関係が変わってきている。従来の相互依存関係から脱却し、個人は自らの成長を考え仕事を選び、企業は個人に自立を促すようになった。こうしてキャリアデザインに対する関心が高まっているが、現実には予測できないことが多く生じ、計画通りにキャリアを作るのは難しい。

そんな中、注目を集めているのがPlanned Happenstanceというキャリア理論。自らのキャリアだけでなく、プロジェクトマネージャーがメンバーのキャリアを支援をする際にもこの理論が何らかのヒントになると思われる。

【講師略歴】 東京外国語大学卒業。(株)リクルートにて人事・マーケティング関連調査の企画・分析等を行なう。1994年に独立。1999年中小企業診断士登録。人事コンサルタントとして企業の人事制度設計や講演、専門誌への原稿執筆など行なっている。著書に「偶キャリア。」(経済界)。

PM-4 大阪府庁の総務事務改革プロジェクト推進事例

8/31 16:40 <官民協働によるシェアードサービスの実現>

松下電器産業株式会社

コーポレート情報システム社 参事 辻部 稔

【セッション概要】 大阪府では2001年度から、2003年の実現を目指した行政の電子化計画(e-ふちよう計画)がスタートした。今回の事例は、その中核となる人事給与・福利厚生、財務会計、物品調達という総務事務全般をIT化し、かつ運用の一部を民間にアウトソースするというプロジェクトの内容である。

民間側のゼネラルマネージャとして、受注当時の状況から構築したシステムの特徴や円滑に運用するための工夫などを具体事例を交えて説明し、最後に本プロジェクトの推進から学んだ教訓などについて紹介する。

【講師略歴】 1975年入社。本社の情報システム部門で、システム基盤構築や運用管理業務を担当。その間、保険会社や証券会社、化学薬品会社のシステム運用コンサル等も実施。2000年8月には、TIS(株)との合併会社『M&Tシステムオペレーションズ(株)』を設立し、代表取締役役に就任。

GL-4 The Evolution of Project Management

8/31 16:40 <Are We Getting Better?>

Managing Editor, pmforum.org (元PMI®会長) Hugh Woodward

【セッション概要】 The presenter proposes a model showing where projects fit in a modern corporation and describing a series of feedback loops important to corporate management. The traditional measures of project success are the least important of these feedback loops, suggesting an extraordinary opportunity for project managers to expand their role and influence, and their value to the organization. The theory is again supplemented with several case studies, or project “stories”.

【講師略歴】 Hugh is a well respected strategist in all aspects of the project management profession. Hugh has played a leadership role in PMI® and served two consecutive terms as Chair in 2000 and 2001. Now he is the President and Managing Editor of pmforum.org.

明日-1 新しいものづくり政策

8/31 13:10 <ものづくりパラダイムシフトを目指して>

経済産業省製造産業局

ものづくり政策審議室長 前田 泰宏

【セッション概要】 経済産業省では新経済成長戦略を掲げ、その中でイノベーションは労働力、資本の増加に一定の限界がある中、わが国経済の持続的な成長を実践するための鍵としています。本講演では、わが国競争力の源泉であるものづくりに関して「新しいものづくり政策」を、現状認識と新しい定義、パラダイムシフト、そのための施策、などの観点から述べ、これを下支えする仕組み体系のひとつとしてのP2Mへの期待を述べます。

【講師略歴】 1988年東京大学法学部卒業・通商産業省(現経済産業省)入省。95年より大臣官房、資源エネルギー庁、商務情報政策局で、課長補佐・総括課長補佐を歴任して、2004年7月製造産業局政策企画官、2005年1月より現職。この間1999年にジョンズ・ホプキンス大学MIPP取得。

明日-2 シャープにおけるプロジェクト型組織マネジメント

8/31 14:20 <液晶テレビAQUOSの開発プロジェクト例>

シャープ株式会社 AV・液晶映像技術開発センター

所長 工学博士 杉野 道幸

【セッション概要】 シャープでは「緊急プロジェクトチーム制」を敷いて明日の戦略的新製品開発をプロジェクト制で実施している。製品というひとつの“システム”を開発する場合、仕様という“目的(目標)”を明確に定めることが重要である。“目的”が明確に定まると、その“システム”を具現化するために最適なプロジェクトが議論できる。目的を見失えばそのプロジェクト自体も失敗となる。いわば、“プロジェクト”は目標達成の“手段”である。本講演では、このような観点で、製品化を意識したプロジェクトの考え方と事例の紹介をする。

【講師略歴】 1984/04: シャープ株式会社入社
2000/8 AVシステム事業本部 デジタルシステム事業部アオス(AQUOS)開発着手
2002/4 37型AQUOSの開発製品化(緊急プロジェクトチーム チーフ)
2004/1~ 26型/32型/37型/45型/57型/65型AQUOS開発と製品化

明日-3 経営目標実現のためのIT投資とユーザー企業の課題

8/31 15:30 <約1000社のユーザーの最新動向より>

社団法人日本情報システム・ユーザー協会

常務理事 原田 俊彦

【セッション概要】 企業にとって、ITは経営戦略や事業戦略を支えるツールとしてますます重要になっており、インフラや効率化のための投資だけでなく、企業価値向上のためのIT投資が重視されるようになってきている。一方、CIOやITの担当者は、コストダウンよりも「投資の妥当性」を強く求められるようになってきている。ユーザー企業にとって、IT投資、システム開発、運用において、どのようなことが課題となっており、どうやって解決しようとしているのか、約1000社のアンケートと、40社のインタビューから分析し、明らかにする。

【講師略歴】 1970年東京海上火災保険㈱入社。1971年より情報システム部門に所属、以降20年間損害保険業務のオンライン・業務システムの開発に従事。1995年より7年間、IT企画部部長、東京海上システム開発㈱、東京海上コンピュータサービス㈱の取締役社長を兼務。2003年より2年間、ITコーディネータ協会へ外向。2005年5月より現職。

A-1 P2Mガイドブック及び事例紹介

9/1 10:00 <P2Mの特徴の理解を深める>

研修事業第1部会

演 久人(松下電器産業)

P2M

【セミナーの狙い】 日本発のプロジェクトマネジメントであるP2M(プロジェクト&プログラムマネジメント)の全体像と特徴をP2Mガイドラインに基づいて、わかりやすく解説する。特にPMBOK®との相違点が理解できるようにP2Mの特徴であるプログラムマネジメントと戦略、ファイナンス、システムズ、資源、関連性、バリューの各個別マネジメントを解説する。さらに活用事例を解説することで、P2Mの特徴の理解を深める。

【セミナーコンテンツ】 ①P2Mの概要 ②P2MとPMBOK®の相違点 ③プログラムマネジメントとは ④P2Mにおける個別マネジメント ⑤P2M活用事例 ⑥まとめ

【受講をお奨めする方】 ①P2Mの概要を知りたい方 ②P2Mの理解を深めたい方 ③P2MとPMBOK®の違いを理解されたい方④P2Mの活用事例を知りたい方。

【講師略歴】 松下電器産業株式会社人材開発カンパニー首都圏チーム、PM担当専事。

・建設コンサルタントにて、都市計画、道路計画、情報計画の多くのプロジェクトを経験。松下電器にてシステム開発、企画などを経験後、現職。経営戦略、プロジェクトマネジメントなどの教育・研修業務に従事。
・技術士(建設)、PM学会理事、IPA ITSS PM委員会委員、北海道大学非常勤講師、PMP®、PMS、ITCインストラクタ、ISMS審査員、情報処理技術者試験委員。

A-2 P2Mプログラムマネジメント・ワークショップ

9/1 14:00 <プロファイリングマネジメント実践>

PMAJ理事 広報部会長 渡辺 貞成

日本ユニシス(株)人材育成部長 兼 日本ユニシス・ラーニング(株)代表取締役社長 白井 久美子

【セミナーの狙い】 ITプロジェクトは失敗率が高いことが悩みの種である。最大の理由は構想計画を正しく策定できないことにある。本講座は、P2Mのプログラム統合マネジメントの中で重要なプロファイリングマネジメントを解説、活用を提案する。

【セミナーコンテンツ】 プロファイリングとはビジネス構想をまとめる際、現状の複雑現象を見抜き実行する課題を可視化する業務である。「あるべき姿」と「ありのままの姿」のギャップを俯瞰するツール「OWモデル」を活用、プロファイリングマネジメントの実践を学習する。

【受講をお奨めする方】 P2Mに興味があり、プロジェクトを構想計画の策定から実施したい方

【講師略歴】 渡辺貞成:日揮㈱で国内外の石油、原子カプラントを経験、日本有人宇宙システム㈱の役員を歴任、JPMF初代事務局長、P2M立上に参画。「プロジェクトマネジャー自在氏の経験則」を執筆。PM関連著書2冊、ペンネーム芝安曇 PMAJ理事、PMS。白井久美子:日本ユニシス(株)で、.NET事業を立ち上げる。SI事業や企業改革、人材戦略推進と企業コンピテンンス強化をP2Mプログラムマネジメントで実践。PMAJ理事、国際P2M学会(IAP2M)理事 普及委員長、PMS、PMR。

B-1 企業レベルPMを支える効果的PMO～リスクマネジメント・アプローチによる実現～ 9/1 10:00 <和の魂が洋のPMBOK®をより強くする(和魂洋才)、知識と実践の一致(知行合一)>

イデオ・アクト株式会社
代表取締役 葉山 博昭

【セミナーの狙い】 最近年IT業界の多くの企業でPMOが設立されているが、効果はその半数程度と言われている。企業レベルを支えるPMOを形骸化させない効果あるものとする実践的方法を説明、又PMBOK®の実践的効果への懐疑心をなくす方法についても説明。

【セミナーコンテンツ】 ①PMOはプロジェクト側から「分かっていることを指摘されても役に立たない」という反発、又「そこまで分かっているなら代わりにやってくれ」という過剰な期待とが入り交じり、PMOが上手く機能しない例がよくある、この問題を解決しないとPMOは形骸すること、またリスク管理を中核としたPMOは効果があることを説明。②リスク管理の実践的事例、3年間の実践効果 ③よく聞かれるPMBOK®の実践上の効果への疑いは、和魂洋才という言葉を参考に「洋」のPMBOK®は和の「魂」を入れることにより解決する、又「知行合一」という考えも実践には重要であることを説明。

【受講をお奨めする方】 PMOに従事している方、PMOに興味のある方、PMBOK®の実践方法に迷いや不安を感じておられる若いPMP、PMP候補の方

【講師略歴】 1970年三井情報開発入社、1977年日本ナレッジインダストリ(現アイエックス・ナレッジ)設立に参画、2006年4月イデオ・アクト株式会社設立、PMのコンサルティングを専業とし現在に至る。SQLと呼ばれる以前のRDBの海外からの導入を始めに、PMとして汎用機自動オーバーレイシステムの開発、国産汎用機OS(通信関連)の開発、金融関係のアプリケーションシステムの開発から得た技術・業務知識とトラブルプロジェクトのレスキューの経験を生かし、実践的PM、PMO支援を行っている。

B-2 PMBOK®ガイド第3版解説 9/1 14:00 <PMBOK®ガイド第3版によるプロジェクトマネジメント知識体系の解説>

研修事業第2部会
小溝 利也(大塚商会)



【セミナーの狙い】 プロジェクトマネジメント(PM)の知識体系として、一昨年、米国PMI®からPMBOK®ガイド第3版が発刊された。PMBOK®をベースにしたPMP®資格認定者も全世界で約18万人となり(2006年2月)、PMBOK®は、プロジェクトマネジメントの知識体系としてデファクト・スタンダードの地位を確立しつつある。PMBOK®第3版は、「殆どの場合にほとんどのプロジェクトで、良い実務習慣として一般的にも認められていること」を知識体系として集大成している。

本講座では、PMBOK®第3版を概説し、プロジェクトマネジメントの実践に役立てることを目的とする。

【セミナーコンテンツ】 PMBOK®フレームワーク、9つの知識エリア、44のプロセスの解説

【受講をお奨めする方】 ①PMP®資格受験を目指す方 ②PMBOK®第3版の内容を知りたい方 ③ITC、P2M資格者の方でPMBOK®概要を知りたい方など

【講師略歴】 株式会社 大塚商会 システムサポート部 課長：1959年生まれ、大手運輸系の電算子会社を経て大塚商会に入社。大型汎用機のオペレータから始まり、プログラマ、システムエンジニアと一貫したIT系エンジニアの経験をもつ。民間、官公庁において販売管理、生産管理、財務管理、在庫管理などの業務システム開発やインフラ構築のPMとして活躍。PMAJ研修第2部会会員、PMI®会員、PMP®資格者。

C-1 現場力を高める見える化手法「プロジェクトファシリテーション」 9/1 10:00 <モチベーションアップのツールと場作り>

株式会社チェンジビジョン
代表取締役社長 平鍋 健児

【セミナーの狙い】 近年、ソフトウェアの短納期化・高品質化が求められています。現場力を高める秘密はプロジェクトの見える化、にあります。

本セッションでは、アジャイル開発とトヨタ生産方式からヒントを得た見える化手法を、「プロジェクト・ファシリテーション」(PF)として体系化し、実践方法を交えて紹介します。また、PM(プロジェクトマネジメント)からPFへの視点の移行を促します。

【セミナーコンテンツ】 見える化とは? 見える化の実践例、プロジェクトファシリテーションとは? その目的、価値、原則、実践。

【受講をお奨めする方】 ソフトウェア開発現場で悩みをもっておられるプロジェクトマネジャー。チームリーダーを対象としますが、他に、新しい挑戦に意欲的な方であれば、どなたでも聞いていただきたい内容です。

【講師略歴】 1989年東京大学工学部卒業後、3次元CAD、リアルタイムシステム、UMLエディタなどの開発を経て、株式会社永和田システムにてコンサルタントとしてオブジェクト指向開発を研究、実践。2006年株式会社チェンジビジョン代表取締役社長。XPの日本メーリングリストXP-jpを運営、オブジェクト倶楽部を主宰。翻訳「XPエクストリームプログラミング導入編」、「リーンソフトウェア開発」など多数。「ハート駆動型コミュニケーション」をモットーに、人に感動を与えられるコンサルタントを目指している。

C-2 PMOツール活用によるプロジェクト成功のシナリオ 9/1 14:00 <効果的なプロジェクト推進の仕組みを検証する>

マイクロソフト株式会社 システムテクノロジー本部ビジネスプロダクティビティテクノロジー部
浦 正樹、安田 和司

【セミナーの狙い】 近年、わが国でも経営戦略上の必要性からPMOを設置する動きが加速している。ところが、そのうちの多くは、漠然とした期待感に応えるための具体的な施策を持ち合わせていないように見える。

本セミナーでは、プロジェクト型経営においてPMOが果たすべき役割を検討する。その上で、PMOツールの機能と活用方法について検証を加える。

【セミナーコンテンツ】 ①なぜ今、プロジェクト型経営なのか ②マルチ・プロジェクト環境では組織の調整力が勝敗を分ける ③PMOの種類と役割 ④PMOツールの機能と活用シナリオ(実演を含む) ⑤組織的なプロジェクトマネジメントの導入はなぜうまくゆかないのか ⑥PMOをデザインする

【受講をお奨めする方】 ①組織の上級管理者 ②PMOのメンバー ③プロジェクトマネジメント導入担当者 ④プロジェクト・マネジャー/ライン・マネジャー ⑤マルチ・プロジェクト環境における組織体制のあり方に興味をお持ちの方

【講師略歴】 浦 正樹
1984年横浜国立大学工学部機械工学科卒。いすゞ自動車、大塚商会、アルテミス インターナショナル、ブライズウォーターハウスコーパス コンサルタント(現IBMビジネスコンサルティングサービス)を経て、2003年にマイクロソフトに入社。製造業を中心に、プロジェクトマネジメントの導入・立ち上げの経験をもつ。早稲田大学非常勤講師。著書に「失敗する前に読む プロジェクトマネジメント導入法」(翔泳社)がある。

D-1 本当に使える見積もり技術

9/1 10:00 <見積もりプロセスをマネジメントする>

株式会社日立製作所 情報通信グループ プロジェクトマネジメント本部
センタ長 初田 賢司

【セミナーの狙い】 ITプロジェクトの成否は「どう見積もるか」に大きく左右される。この段階でプロジェクトの大枠が決まるからだ。見積もりの前提条件が曖昧で、ベースラインが明確になっていないとプロジェクトをコントロールすることは難しくなる。ところが肝心の見積もり技術はまだ未成熟で、勘や経験に頼るところが大きい。本セミナーではプロジェクトマネジメントやエンジニアリングの観点から見積もりをとらえ、曖昧さを排除し、見積もりの合理性、論理性を高めるためにはどのようにアプローチすればよいかを解説する。

【セミナーコンテンツ】 ①ITプロジェクトの見積もりはなぜ重要か ②モノ作りの計画とマネジメントの計画 ③見積もりプロセスの基本的な流れ ④見積もりの準備 ⑤規模見積もりとファンクションポイント法 ⑥工数見積もりの技法とポイント ⑦コスト見積もりと価格設定 ⑧見積もり精度を向上させるには。

【受講をお奨めする方】 ITプロジェクトに携わる ①プロジェクトマネジャー ②見積もりを実施するエンジニア ③PMOのメンバー

【講師略歴】 1980年、日立製作所入社。製造業のシステムエンジニアを経て、92年からソフトウェア生産技術の開発に従事。2001年からはPMOに所属し、プロジェクトマネジメント分野の制度化、人材育成、エンジニアリング化に取り組み、施策立案から組織への定着化までを担当。日本ファンクションポイントユーザ会副会長、プロジェクトマネジメント学会理事を務める。日経ITプロフェッショナル誌に2005.5月号から2006.3月号まで「本当に使える見積もり技術」を連載。

D-2 失敗しない外注管理

9/1 14:00 <いかに協力会社のコミットメントを強化するか>

株式会社PMコンセプト
代表取締役社長 長尾 清一

【セミナーの狙い】 負荷の増大、技術力の不足、或いはコスト圧縮要求等により外注化がますます加速している。システム構築では、今や協力会社抜きでは業務を遂行できない。外注比率が累増する一方、「品質が基準以下」、「報告上の「順調」が結局は納期遅延」、「プロ集団に任せつつも逆になにに教える羽目に」等の問題に直面し、期待する外注化メリットを享受できない場合も多い。外注管理を単に「RFPの作成と外注選定」の狭い範囲で捉えている場合や自社要員に対する管理と同じ感性で行う場合、プロジェクトは確実に失敗する。本セミナーでは、戦略的な内製対外注分析、成果を出せる協力会社の見極め、リスクを分散させる外注契約、体系的な外注コントロールといった全局面でのポイントと問題を克服する具体的な管理手法を説く。

【セミナーコンテンツ】 ①外注化戦略とプロセス ②RFP作成と情報収集 ③外注契約によるリスク分散 ④外注コントロール ⑤評価と分析

【受講をお奨めする方】 プロジェクトマネジャー、サブリーダー、調達メンバー

【講師略歴】 UCバークレー校ビジネススクール大学院卒、MBA取得。滞米15年間で大規模プロジェクトを指揮、監督する。多国籍・多分野のチームを指揮してきた交渉力、債務不履行に関する知識を基に問題プロジェクトの処理を経験する。1993年よりPM教育専門の米国企業のアジア・パシフィック地区総責任者として、世界7ヶ国でPMトレーニング、コンサルティングを実施する。1993年にPMP資格を取得。1997年、株式会社PMコンセプト設立。著書に「先制型プロジェクト・マネジメント」(ダイヤモンド社)。

E-1 必修!PS流誉め方叱り方

9/1 10:00 <メンバーの心に響くリーダーシップとは>

IT-SIG PS-WG 松尾谷 徹(デバッグ工学研究所、法政大学講師)
松田 浩一(富士通)、森本 千佳子(TIS) **SIG** ワークショップ

【セミナーの狙い】 プロジェクトの生産性向上は行詰っています。ツールや技術、管理の導入など、様々なチャレンジをしてきましたが、残念なことに、思ったほどプロジェクトの生産性は向上していません。何故でしょう? 最終的に仕事を行うのは人であり、チームです。チームのモチベーション(PS=Partner Satisfaction)が向上しないと、どんな技術も、管理も活かされないのです。チームには、本来、お互いのやる気を高めあうソーシャルサポート機能があります。このセッションでは、チームのやる気を引き出すリーダーシップを学び、ソーシャルサポート機能を引き出し、自律するチーム作りを学びます。

【セミナーコンテンツ】 ①PM理論からみた人を動かすリーダーシップ行動 ②メンバーのやる気を引き出す褒め方、叱り方 ③ソーシャルサポートを発揮するチームとは

【受講をお奨めする方】 ①チームリーダー、プロジェクトマネジャー ②初めて部下を持つ方 ③部下とのコミュニケーションで困っている方 ④メンバー間の調整やチーム運営に困っている方

【講師略歴】 松尾谷徹: 1972年NEC入社。大型システム開発で数々の問題プロジェクトの建て直しに貢献、その経験から社内にモダンプロジェクトマネジメントアカデミーを設立し、ITプロジェクト成功のための人材育成に尽力。現在、デバッグ工学研究所を営み、PS研究会を主催。博士(システムズ・マネジメント 筑波大) 松田浩一: 富士通株式会社、大型ITプロジェクトのマネジャーをしながら社内でPS向上活動を推進
森本千佳子: TIS株式会社、PMP®、MBA、産業カウンセラー

E-2 プロマネ成功学

9/1 14:00 <プロジェクト危機解決から学ぶプロジェクトマネジメントの成功要因と今後の課題>

株式会社クロスリンク・コンサルティング
代表取締役社長 拜原 正人

【セミナーの狙い】 10年間でソフト開発プロジェクトの成功率は倍増したが、未だ30%台に過ぎない。近年の企業経営/ビジネスの変革に伴うプロジェクトの本格導入、プロジェクト環境の複雑化・多様化、プロジェクトマネジャー絶対数の不足などから、今後の成功率の動向は予断を許さない。この危機感の下で、100を越えるプロジェクトに関わり、その半数を占める危機プロジェクトを再建したPMノウハウと、近年のPMの実態から、PMの本質とその変化を解明、今後のプロジェクトの成功要因を探る。

【セミナーコンテンツ】 ①危機プロジェクト分析によるPM課題の顕在化 ②PM課題の分析と本質の追求(ex.プロジェクトの本質、マネジメントの本質、現状PMに欠けているもの等) ③プロジェクト成功要因とPMのあるべき姿 ④今後、我々が成すべきPM改革

【受講をお奨めする方】 ①企業/組織変革の責任者で、PMを変革のための重要なツールと考えておられる方 ②オーナー、コントラクター(Sier)などのPM統括責任者、プロジェクトマネジャーでPMに熱い思い、あるいは不安を持っておられる方

【講師略歴】 1970年日本電信電話公社入社。電気通信研究所でデータ通信用メインフレームDIPSプロジェクトの開発に従事。100を越えるシステム開発プロジェクトのマネジメントに携る。97年、NTTソフトウェア取締役に就任、NTTグループ企業外の顧客を担当。2003年、危機プロジェクトの再建を請負うクロスリンク・コンサルティングを設立、代表取締役に就任。危機再建ノウハウを活かしたプロジェクト危機防止のリスクマネジメントを確立、展開中。情報処理学会、PM学会、IAP2M学会、PMAJ会員

F-1 PMによる21世紀の効果的なプロジェクト遂行と遂行技術の伝承の方策

9/1 10:00

日揮プロジェクトサービス株式会社
顧問 高橋 良之

【セミナーの狙い】 高齢化が進む企業は将来を生き抜くため、世代交代を積極的に行っている。その一方、多くの企業で必ずしも遂行技術の伝承が上手くいっていない。各実務担当者の努力にもかかわらず、先輩からの適切な指導、経験、遂行技術ノウハウが十分に活用されず、思わぬミス、リサイクル作業の増加で、プロジェクトの採算性を悪くしている。21世紀に入り景気回復の兆候が始め、受注が好調になりつつあるが、それに反比例してエンジニア不足が顕著になっている。そのため実務担当者は想像を越せる厳しい環境(過酷残業)で仕事を行っている。

【セミナーコンテンツ】 その現状を改善・打破すべく、PMに基くエンジニアリング遂行基盤(EP:エンジニアリングプラットフォーム)を構築する必要がある。その構築の仕組み・方策のヒントを説明する。EPの基盤となる遂行技術(ノウハウ含む)を先輩から後輩へ技術伝承していく難しさと伝承の仕組み・方策の例を提示し、今後のPM技術向上と育成のヒントとしてほしい。

【受講をお奨めする方】 プロジェクト・マネジャー(リーダーを含む)及び育成する立場の方

【講師略歴】 昭和39年日揮入社、国内・海外の石油精製、石油化学、化学、食品加工、家電、自動車関連プラントのプロジェクト・エンジニア、エンジニアリング・マネジャー、プロジェクト・マネジャー、事業部長として職務を担当する。主なる経験分野は石油化学、一般化学、食品製造・加工、自動車関連、FA分野等・PM遂行技術向上のためのコンサルタント役務(現在)
・PM講座(ENAA)の講師(現在)、PM講座(PMAJ)の講師(現在)。

F-2 SIプロジェクトの実践的リスクマネジメントガイド

9/1 14:00

＜受託案件型SIプロジェクトの成功に向けたリスクマネジメントのアプローチ＞

IT-SIG RM-WG

土出 克夫(富士通)、中谷 英雄(テクノサージ)

SIG

【セミナーの狙い】 昨今、受託案件型のSIプロジェクトではQ.C.Dの目標達成が非常に難しくなっている。お客様からの益々多様化・複雑化・高度化するシステム化案件に加えて、短納期・低価格実現の要求が背景にあるが、プロジェクト成功のためには商談段階からの継続的なリスクマネジメント(RM)が非常に重要といえる。本セッションではRMの捉え方とアプローチ、眼のつけどころについて、SIGが作成した「SIプロジェクトの実践的リスクマネジメントガイドブック」をもとに紹介する。

【セミナーコンテンツ】 ①SIプロジェクトにおけるリスクマネジメントの捉え方とアプローチ ②「SIプロジェクトの実践的リスクマネジメントガイドブック」の概要 ③同ガイドブックの活用方法 ④SIプロジェクトのフェーズ別リスクマネジメントの押さえどころ・眼のつけどころ

【受講をお奨めする方】 ①リスクマネジメントに悩んでおられるプロジェクトマネジャー ②SIビジネスを推進・監理されているマネジャー ③PMOの立場でプロジェクトをチェック・サポートされているスタッフ

【講師略歴】 土出克夫：富士通株式会社 人材開発部 プロフェッショナル研修センター シニア・レクチャー。1969年からフィールドSE、共通技術管理(スタッフ)、ラインマネジャーを経て、1994年からシステム部門におけるISO9001QMSの導入・推進(品質管理責任者)、プロジェクト診断、PM現場指導、PM研修教材開発、同講師等に従事。
中谷英雄：株式会社テクノサージビジネスコンサルティング事業部シニアビジネスコンサルタント。日本ユニシスにて、エアライン座席予約システムなどの開発経験、中央三井信託銀行にて、証券分野でのPMとして指揮・監督を行う。現在、企業向けにPMコンサルティングに従事。

G-1 「ITPM教科書」を読む：旧JPMF関西支部 2005年度自主勉強会活動

9/1 10:00

＜IT系のメンバーは、エンジニア系のメンバーはどう読んで、共通のシナリオを掴んで1年間＞

旧JPMF自主勉強会PM(PEデスク・コンサルタント) 大久保 和彦
旧JPMF自主勉強会メンバー(関西系電機メーカー・ソフトウェアエンジニア)橋本 欽司

【セミナーの狙い】 IT系PMとENG・建設系PMの接点を探る。

【セミナーコンテンツ】 旧JPMF関西支部では2004年度から会員の任意参加による自主勉強活動を上げた。PMに関する共通の関心事項をテーマとして、毎月1回、第3金曜日の夕刻、参加者によるプレゼンテーションと討議を実施してきた。IT関連系と建設・エンジニア系がそれぞれ半数を占め、毎回10-15名が参加した。2005年度はPMの新しい動向に着目し、IT系、エンジニア・建設系双方が参画出来るテーマということで、Kathy Schwalbe著「ITPM教科書」を取り上げてみた。

同書の記述がPMBOK® Guide 2000 に沿ったものであること、プロジェクト・ツールの使用例が随所に取り込まれていることが参加者に共通の場を提供した。この勉強会自体をバーチャルな「ITPM教科書プロジェクト」に設定し、参加者をチームメンバーとみなして教科書のPMプロセスを忠実にフォローしてみた。

【受講をお奨めする方】 IT系を知らないENG・建設系プロジェクト従事者、ENG・建設系を知らないIT系プロジェクト従事者

【講師略歴】 大久保和彦：PE & PMP® / 1960年～東北大学工学部卒、国内素材メーカーで製造技術担当。1975年～南米、中近東にてプロジェクトのPMおよび経営指導。2001年～PEデスク主宰、技術者の国際化支援、PM教育・コンサルティング
橋本欽司：PMP® / 1984年～大阪大学大学院基礎工学研究科前期課程を修了。1984年～国内電機メーカーの研究開発部門でソフトウェア関連の開発業務を担当。1994年～製造事業所にて商品組込ソフト開発・PMを担当

G-2 チームと個人を幸せに導くプロジェクトマネジメント

9/1 14:00

＜顧客や組織を動かすプロジェクトマネジャーの心得と行動＞

有限会社ウィンアンドウィン

代表取締役 近藤 哲生

ワークショップ

【セミナーの狙い】 プロジェクトが失敗すると、チームや組織が崩壊し、あるいは失敗街道を進む中で、個人の犠牲者が出る人が多い。プロジェクトを見事に成功させるには、プロジェクト(組織)のビジョンをスポンサーや顧客を含む関係者全員で共有し、モチベーションを高め合うことが最も重要である。そのためには、全員が納得する計画作りや、全員で自主自律的に行う「高速回転のプロジェクト」運営が必要になる。しかし、これらの活動を実現するためには、顧客をも巻き込んだ全体最適のプロジェクト運営の考え方が不可欠である。全体最適のプロジェクト運営のための事例を示し、ヒントや気づきを提供する。また、副題事項について、グループ討議し結果を発表し講評する。

【セミナーコンテンツ】 ①個人と組織の関係性 ②スポンサーシップの必要性 ③顧客とのコラボレーション

【受講をお奨めする方】 これからリーダーやマネジャーになる方、なかなか成功することが出来ないPM経験者、失敗の多い組織風土を変革しようと考えている方々。

【講師略歴】 1946年愛媛県生まれ。日立製作所に入社。情報・通信システム、艦船搭載システムなどの開発に従事。多くの苦戦するプロジェクトを立て直す中から、独自の「プロジェクトを成功させる方法論」を見いだす。特に「自律的な学習するチームづくり」を促進するPMの確立に取り組んでいる。コンサルタント会社ウィンアンドウィンを2002年設立。
著書「実用企業小説 プロジェクトマネジメント」、「はじめてのプロジェクトマネジメント」共に、日本経済新聞社 発行

H-1

死ぬ前に達成すべき25の目標:人生というビッグ・プロジェクトをマネジメントする
 <25TTDB4YD: 25 Things To Do Before You Die>

9/1 10:00

プラネット株式会社 代表取締役社長、株式会社ロゴ会長
 代表取締役 中嶋 秀隆

【セミナーの狙い】我々の一生の中に、PMの手法を取り入れるという発表者の「試案」をご提供し、ご批判を頂戴したい。

【セミナーコンテンツ】1人の人間がこの世に存在することは、たくさん「セレニディピティ(幸福な偶然)」の重なりで可能になった。その意味を、PMのノウハウの観点から考えてみたい。プロジェクトの「制約3条件」を今日の人間の一生にやや乱暴に当てはめると、①時間は「80年」②資源は「所得+エネルギー」③スコープ・品質は「志+目標」と整理できるのではないか。リスク・マネジメントでは、リスク事象の期待値は発生確率と影響の積で求めるが、人間の死の発生確率は100%である。一方、現代社会は多くの刺激にあふれており、次々に立ち現れる刺激に反応を繰り返すだけでも、「80年」の相当部分が過ぎる。われわれが死を前提に、それまでに達成すべき目標を25コ設定し、実現に集中すべきという論点である。

【受講をお奨めする方】PMの手法をご自分の一生に当てはめることにご興味をもたれる方。

【講師略歴】茨城県つくば市在住。家族は妻、長男(大4)、次男(大1)。国際基督教大学大学院修了。京セラ(海外営業)、インテル(国際購買マネジャー、法務部長、人事部長)など、日米の有力企業に約20年間勤務。その間に、多数のプロジェクトにプロジェクト・マネジャーとして参画。現在、日本およびアジア地域のビジネスパーソンを対象に、プロジェクトマネジメント技法の研修、コンサルティングを行っている。慶応義塾大学非常勤講師。著書多数。

H-2

プロジェクト成功確率向上に向けた戦略的進化のための2つの視点
 <戦略的PMO&リーダーシップ力>

9/1 14:00

アイシंक株式会社
 代表取締役 CEO 伊藤 健太郎

【セミナーの狙い】プロジェクトは不確実性を本質的に保有すると同時に、生身の人間が実行する。また、組織内では複数のプロジェクトが同時に遂行されているためリソースの混乱や特定の人材への過負荷、納期遅延など多くの問題も生じやすい。しかし、プロジェクトの成功から組織が便益を得ないと、組織は次への成長に向かうことができない。つまりプロジェクトの成功確率を向上させることは組織の存続や成長に必要な不可欠なことである。

そのためには、ただ目の前のプロジェクトだけに注意を払う対症療法では不十分である。このセッションでは、組織の本質的改善のための戦略的取り組みを考察していく。

【セミナーコンテンツ】①戦略的進化に必要な組織デザイン
 ②戦略的PMOの役割と導入方法 ③プロジェクトマネジャーのリーダーシップ力の獲得方法

【受講をお奨めする方】①組織の責任者 ②プログラムマネジャー
 ③プロジェクトマネジャー ④PMOの方

【講師略歴】福岡生まれ。九州大学大学院卒業後、NKK(現JFE)にて船用エンジンや環境プラント(ごみ処理施設プラント)の国内・海外でのプロジェクトに参加。2003年5月にアイシंक(株)を設立し、プロジェクトマネジメントに特化したコンサルティング・研修を実施。著書として、「プロジェクトはなぜ失敗するのか」(日経BP社)、「戦略的エンタープライズ・プロジェクトマネジメント(翻訳)」(生産性出版)などがある。PMI®会員、PMAJ会員

K

プロジェクト計画に必要なPMコンピテンシー開発ワークショップ
 <PMコンピテンシーを強化する行動習慣とセルフメンタリング>

9/1 10:00

PMコンピテンシーSIG SIG ワークショップ
 好川 哲人(プロジェクトマネジメントオフィス)、加藤 隆(エデュコム)

【セミナーの狙い】このワークショップは、PMコンピテンシーSIGが開発したPMコンピテンシー開発手法をワークショップの形で提供するものである。ワークショップ全体は7つのセッションがあるが、今回は特に計画プロセスに焦点を絞り、計画作業を行う際に必要になるPMコンピテンシーの開発を目指す2つのセッションを行う。

【セミナーコンテンツ】セッション1は、目的(ゴール)の明確化に関するセッションで、目的管理の方法について解説したのち、ケース演習により、目的を持ってプロジェクトマネジメントを進めることのイメージをつかむ。セッション2はステークホルダーとの共通認識を作るセッションで、コミュニケーションとは何かについて述べたのち、コミュニケーション計画を策定し、そのロールプレイを行うことにより、共通認識を形成するプロセスのイメージをつかむ。最後に、これらのイメージを行動習慣化するための手段として、セルフメンタリングについて解説する。

【受講をお奨めする方】①プロジェクトマネジャーまたはメンバー
 ②PMOメンバー③人材育成担当者

【講師略歴】好川哲人:神戸大学大学院工学研究科修了後、三菱重工業、京都高度技術研究所を経て独立。その後、神戸大学においてMBA取得。技術開発型企業の組織、経営マネジメントのコンサルティングに従事。加藤隆:1986年KPMGにて経営コンサルティングを担当。1989年Pess Time(ヒューマンスキル教育専門会社)にて研修講師(ファシリテーター)及び教育コンサルティング担当。1997年人事教育コンサルタントとして独立。2002年エデュコム設立 代表を務める。

L

若手PM向けWBSワークショップ

9/1 10:00

有限会社デム研究所
 代表取締役 城戸 俊二

ワークショップ

【セミナーの狙い】WBSはチームでものごとを進める際の核となる枠組みであり、プロジェクトに於いてはステークホルダーが作業の状態を認識するための共通の手段(視点)で、統合マネジメントの要である。本講はPMの要素技術がその要(WBS)にどのように関連付けられているかを、演習キットを介してビジュアルに修得する。

【セミナーコンテンツ】数名毎のグループ演習形式で行う。演習には講師が準備した教材(演習シナリオとWBS/スケジュール組立キット)を用いる。講座進行はまずWBSやスケジュール、プロジェクト組織に関する基本的な知識をおさらいした後、汎用的な演習シナリオとして“マイホーム建設”プロジェクトを用い、WBS、スケジュール、役割分担表を立体的に組立てる。最後に各グループの作品がWBSの役割(ステークホルダーに共通の視点を提供)に適切であるか否かをグループ相互に鑑賞(評価)し合う。

【受講をお奨めする方】今からPM職に携わる方、或は同等レベルの職務経験を持つ方。但しWBS、スケジュールについて初歩的な理解をしていること。

【講師略歴】昭和37年九州大学工学部卒、同年4月東洋エンジニアリング(株)入社。同社でPE、PM、PCM、PMS技師長などに従事。平成10年定年退職。同年(有)デム研究所を設立、PM教育講師、企業のPM手法導入、業務機能分析支援などで現在に至る。【PM関係社会活動】平成6年(ENAA)PMSS分科会長、平成7、8年(同)CAE/PMS分科会長および幹事、平成2~10年(同)PM講習会講師。現在、厚生労働省高度ポリテクセンターでPM講座講師。PMAJ理事、同PMリソースセンター長。

M 自立したチームを創るためのPMマインド 9/1 10:00 <コーチ型PMでメンバーの力を10倍引き出す>

アネゴ企画 上田 雅美、コーチングカフェ 小田 美奈子
松本屋 松本 潤二 **ワークショップ**

【セミナーの狙い】「メンバーの力を最大限に引き出す」。プロジェクトの中でプロジェクトマネージャーやプロジェクトリーダーが多く悩みをもつところでもある。

このセッションでは、プロコーチのクライアント(対象者)への関わり方を中心に学び、参加者自身のプロジェクト内でも自分なりのやり方で「メンバーの力を引き出すことができるようになる。自立型チーム作りの一歩を踏み出すことができる」ことを目的とする。

【セミナーコンテンツ】リーダーのチームに対する関わり方を中心に、ワークショップ形式(参加型)でディスカッションやロールプレイを行うセッション。「自立したチーム作り」とはどんな事か?具体的には何をすることなのか?について学ぶ。

【受講をお奨めする方】①プロジェクトマネージャー及びリーダー(それに類するミッションをお持ちの方) ②リーダーを育成する立場の方 ③自立的なチームを創ることに関心をお持ちの方

【講師略歴】上田雅美:【アネゴ企画】2000年よりコーチを開始、2005年に独立し、コーチを専業とする。(財生涯学習開発財団認定コーチ
小田美奈子:【コーチングカフェ】2000年よりコーチを開始、2005年に独立し、コーチを専業とする。(財生涯学習開発財団認定コーチ
松本潤二:【松本屋】システム開発部隊においてプロジェクトファシリテーションを中心に活動を行う。CTIジャパン応用コース終了。
共同執筆としてJAVAPRESS(技術評論社)にコーチング記事を一年間執筆する。



国内最大の参加人数
2004年1,000人、2005年1,300人

展示ブース概要

8月31日(木) 9:15~17:45 2F 桃源

出展企業名	出展概要
日本プロジェクトマネジメント協会	PMAJが実施する講座、セミナー、出版物等のご案内、および部会、SIG、研究会等の活動のご紹介とご参加案内。
アイシंक株式会社	PM研修のご紹介やリーダーシップ育成シュミレータ「バーチャル・リーダー」を体験して頂けます。
アルテミスインターナショナル株式会社	企業価値の最大化を図るための投資計画の策定とマネジメントの実践方法をご紹介。
プラネット株式会社	PM関連セミナーのご紹介。「PM標準10のステップ」「PMP受験対策」「PMコンサル」
株式会社口ゴ	「クリティカルチェーン」によるインプリメンテーションとワークショップのご紹介。
株式会社ニルソフトウェア	プロジェクト管理支援ツールxDTSおよびWBS作成支援ツールWSPadを用いたニルソフトウェアが提供する実践的プロジェクトマネジメントのデモ。
株式会社ヒューマンデザインオーソリティ	プロジェクトマネジメントから学ぶ「PWA(仕事の段取り力)」トレーニングプログラム、大阪商工会議所主催・PWA検定試験のご紹介
ITエンジニアリング株式会社	「Primavera」によるEPM構築の実例・機能紹介や、PMに関する教育プログラムのご紹介などを行います。
株式会社テクノサージ	企業向けプロジェクトマネジメント・サービスと、PM支援システム「e-工程マネージャー」の展示。
株式会社富士ゼロックス総合教育研究所	世界最高水準のPM研修からPM人材育成、PM成熟度アセスメントまでのサービスを紹介。
☕ コーヒーサービス	朝・昼休み・休憩時間に提供します。

参加申込要領

- お申し込み方法 WEBにてお申し込みを受付けます。
『PMシンポジウム2006』のご案内ページをご参照ください。

<http://www.pmaj.or.jp/sympo/2006/index2.html>

- 参加申込み期限 8月21日(月) (早期割引申込み期限7月31日(月))

※申込み先着順に定員となり次第締切りとさせていただきますので、早めの申込みをお薦めいたします。

- お支払い方法

早期割引適用の方は8月4日(金)までに、それ以外の方は8月21日(月)までに右記の口座にお振込みください。また、お振込み時には、参加者名及びお申込み番号を必ずご記入ください。

- ※企業名でお振込みの場合は、事前に参加者名及びお申込み番号を事務局までお知らせ下さい。
- ※恐れ入りますが振込み手数料はご負担ください。
- ※参加証は、参加費のご入金を確認させていただいた後、電子メールにてお送りさせていただきます。
- ※申込み後のキャンセル取扱いは、ホームページに記載しています。

- お問い合わせ

日本プロジェクトマネジメント協会・事務局
E-mail:admi-sympo@pmaj.or.jp
TEL.03-3539-3022 FAX.03-3539-1741

[口座名] 三菱東京UFJ銀行 本店 普通0737079
[名義人] 特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会
(トクティエイリカツドウホウジンニホンプロジェクトマネジメントキョウカイ)

- 参加費 注)参加申込み時にPMAJに入会申込みの場合は会員扱いとなります。
会費及びシンポ参加費の入金確認後、電子メールにて参加証をお送りいたします。

	8月31日(木)		懇親会	9月1日(金)	
	シンポジウム			セミナー・ワークショップ	
対象者	7/31まで(早期割引)	8/1以降(通常申込)	通常申込みのみ	7/31まで(早期割引)	8/1以降(通常申込)
PMAJ正会員	7,000円	8,000円	5,000円	8,000円 (半日セミナー)	16,000円 (1日セミナー)
PMI会員				9,000円 (半日セミナー)	18,000円 (1日セミナー)
PMAJ法人正会員および ENAA賛助会員企業の社員または職員	9,000円	10,000円	5,000円	10,000円 (半日セミナー)	20,000円 (1日セミナー)
ITC協会会員				11,000円 (半日セミナー)	22,000円 (1日セミナー)
一般参加者	12,000円	13,000円	5,000円	13,000円 (半日セミナー)	26,000円 (1日セミナー)
学 生	3,000円		5,000円	10,000円 (半日セミナー)	20,000円 (1日セミナー)
				11,000円 (半日セミナー)	22,000円 (1日セミナー)

ENAA (エンジニアリング振興協会)

ENAAは、プロジェクトマネジメントをはじめとするエンジニアリング技術の向上・普及を目的として、1978年に設立されました。エンジニアリング、造船重機、鉄鋼、電機通信、産業機械、総合建設企業など200社が会員となっています。

PMAJ(日本プロジェクトマネジメント協会)

PMAJは、プロジェクトマネジメント資格認定センター(PMCC)と日本プロジェクトマネジメント・フォーラム(JPMF)が統合されて2005年11月に発足した協会です。現在、個人会員数は3,000名、法人会員数は130社です。P2M資格試験やPMシンポジウム、例会、PM研修、国際交流、機関誌の発行を通じて実践的PMの普及活動を行っています。

ACCESS

都営新宿線 船堀駅下車 徒歩1分

MAP



東京都江川区船堀4-1-1 TEL.03-5676-2211